

E-25 農家生活における健康と医療について(2報) —医療費の負担と給付—
信州大教育 三石千代子

目的 農家生活において所得増への直接的関連として強調される生産労働は、健康面で過労、農夫症そして医療費増へのつながりをもつものである。かゝる農家生活における健康と医療の実態を、農家の家計にせめる国民保険医療の負担と給付を中心として究明することを本報告の目的とした。

方法 1報と同じく長野県北信K地域における昭和51年度国民健康保険加入者の医療受診の実態調査による。これより国民健康保険料および医療費について負担と給付の検討をおこない、考察を試みた。

結果 母帯における負担とは、世帯に課せられた国民健康保険料と家族各員の医療費の自己負担を合せたものである。自己負担は家族個人の総医療費より条件に応じた給付分、特別控除分を差引いたものである。

K地域における総医療費は全世帯平均で198817.4円、国民健康保険料負担率38%、自己負担率15%、全負担率53%である。

これを家族類型別にみると、核家族と拡大家族(祖父母、夫婦、子ども)の二者については総医療費は拡大家族に大きく核家族の3.9倍であるのに、負担率は核家族に高く拡大家族の2.5倍である。所得階層別では総医療費は1分位層に高く5分位層の2倍であるのに、負担率は5分位層が1分位層の4倍と高い。

即ち、給付面よりみると母帯における全額給付者、高額給付者の有無、員数および保険料負担率の高代なども、度益率を左右する要因となることが考えられる。